SONY

2-632-336-**06** (1)

IC/カセットコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IC RECORDER

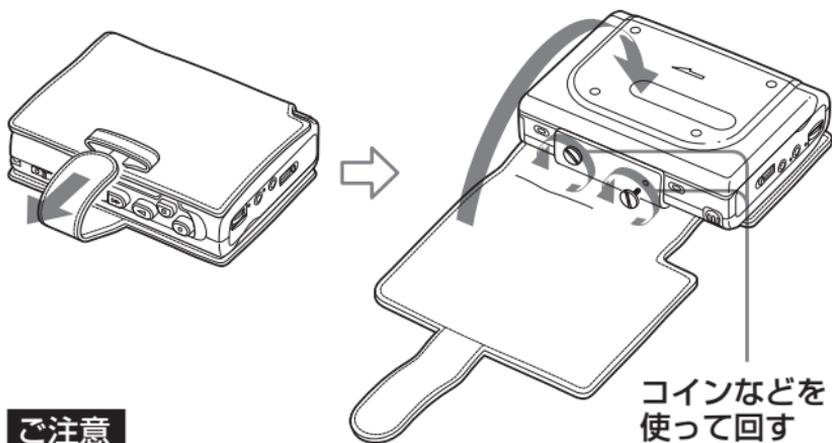
TCM-IC100

目次

ご注意

- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- 本製品の不具合により、録音ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合、録音内容の補償についてはご容赦ください。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
- 本機の2倍モード(2.4cm/s)で録音したテープは、2倍モードのないテープレコーダーでは正しく再生できません。

キャリングケースについて

本機についているキャリングケースは取りはずすことができます。

ご注意

キャリングケースを取りはずすときは、ICレコーダー部の誤操作を防止するためにICホールド━▶スイッチを矢印の方向にずらしておくことをお勧めします。

はじめに

こんなことができます

本機はICレコーダーとして、またカセットコーダーとしてお使いいただけるほか、ICレコーダー部で録音した大切な記録をテープにダビングして保管することができます。

ICメモリーに録音する（16ページ）。

ICメモリーの録音内容を聞く（22ページ）。
テープへダビングしたい部分を探します。

ICメモリーからテープへダビングする（36ページ）。

つづく➔

ICレコーダーとは?

本機は、ICメモリーを使用して手軽に声のメモなどを録音できるICレコーダーを搭載しています。簡単な操作で、録音や再生が手軽にできます。

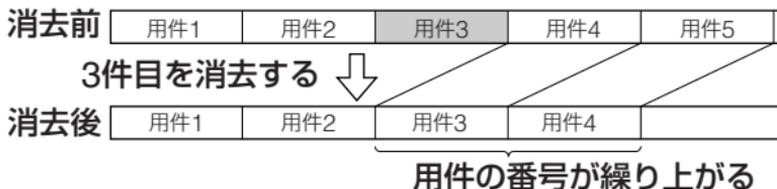
●録音

ICレコーダーでは、1回の録音が1つの用件として保存され、それぞれに用件番号がつきます。新しい用件は、自動的にメモリーの最後尾に録音されるため、テープレコーダーのように他の用件の上から録音してしまう失敗がありません。また録音を始めるところまで早送りや巻き戻しをする必要がないので、必要なときにすぐ録音を始められます。さらに、テープレコーダーと異なり、長時間の録音でもテープを裏返したり、入れ替えたりする手間がかからず連続して録音することができて、大変便利です。

●再生

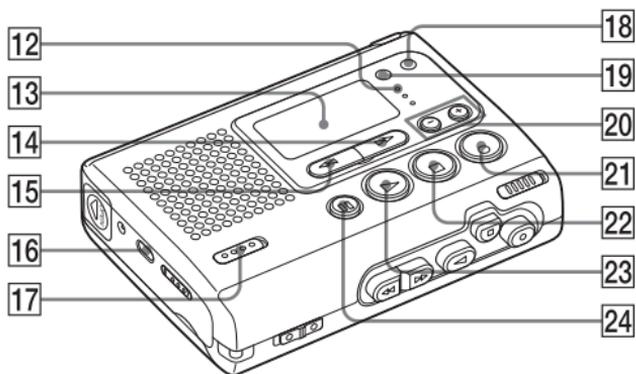
録音した用件は、テープレコーダーのように巻き戻しをする必要がなく、すぐに聞くことができます。また、表示窓の用件番号で、聞きたい用件を簡単に探して聞くことができます。

●消去

不要な用件は、簡単に消すことができます。
途中の用件を消すと、次の用件が自動的に繰り上がるので、テープのようにブランクができません。

準備する

各部の名前

共通

1. (電池交換)ランプ
2. 電池入れ
3. DC IN 3Vジャック
4. VORスイッチ
5. ハンドストラップ取り付け部
6. マイク(内蔵マイク)
7. イヤホンジャック
8. マイク(プラグインパワー)ジャック*
9. 音量つまみ*
   音量「大」の方向に凸点があります。
10. IC/テープ録再モード(標準／2倍モード)スイッチ*
    「標準」側に凸点があります。
11. スピーカー

ICレコーダー部

12 ICメモリー動作ランプ

13 表示窓

14 ▶▶早送り／キューボタン

15 ◀◀巻戻し／レビューボタン

16 消去ボタン

17 ICホールド━▶スイッチ

18 区切りボタン

19 日時表示／設定ボタン

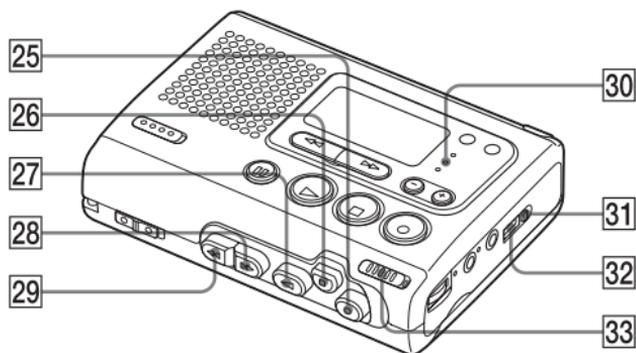
20 用件選択⊕／⊖ボタン

21 録音●ボタン

22 停止■ボタン

23 再生▶ボタン*

24 IC一時停止❚❚ボタン

つづく➔

カセットコーダー部

25 ●録音ボタン

26 ■停止ボタン

27 ◀再生ボタン*

28 ▶▶巻戻し／レビューボタン

29 ◀◀早送り／キューボタン

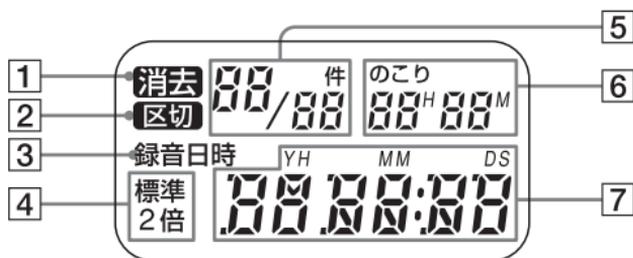
30 テープ動作ランプ

31 テープカウンターリセットボタン

32 テープカウンター

33 テープ一時停止◢━スイッチ

* 凸点(突起)があります。操作の目印としてお使いください。

表示窓（ICレコーダー部の内容を表示します）

1 消去表示

2 区切表示

3 録音日時表示

4 録再モード表示

5 用件番号／保存用件数表示

6 録音残り時間表示

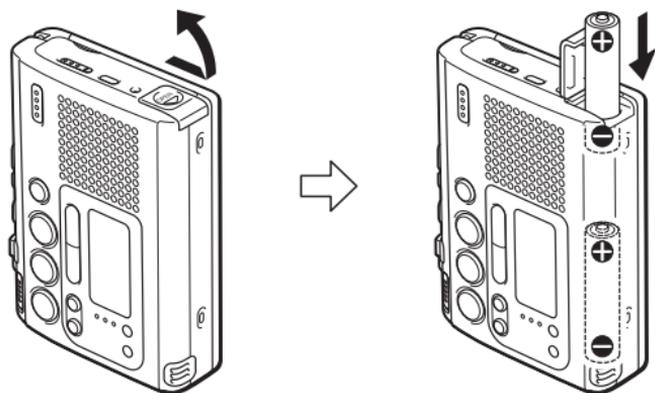
7 カウンター、年月日、時刻、メッセージ表示など

つづく➔

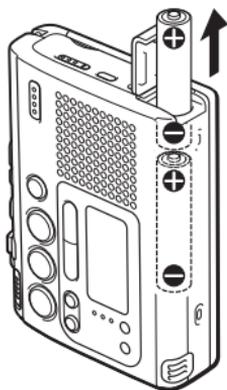
乾電池を入れる

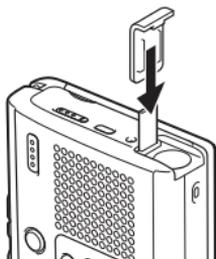
ここでは乾電池での使いかたを説明します。付属のACパワーアダプターをつないでコンセントで使うには、「コンセントにつないで使う」(14ページ)をご覧ください。

1 電池入れのふたを押しながら矢印の方向へずらし、持ち上げます。

2 単4形乾電池2本を入れます。

ご注意

新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。

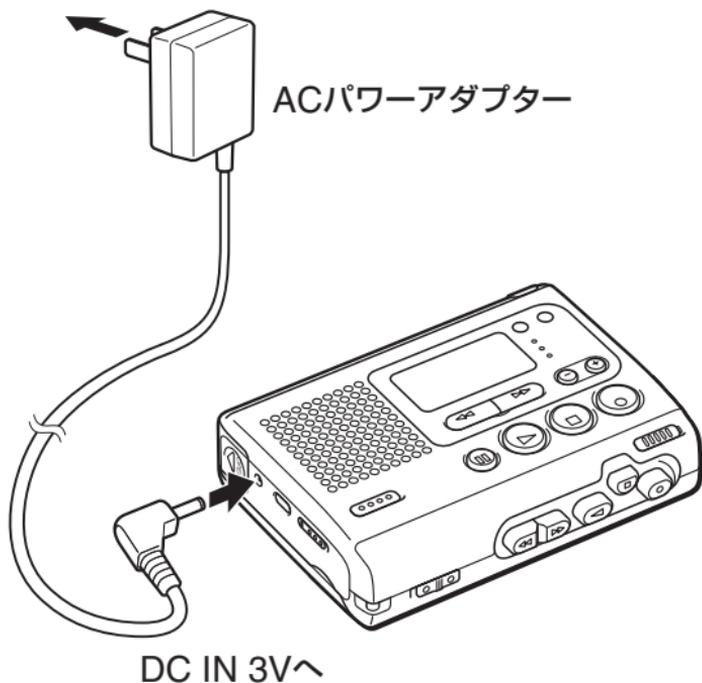
乾電池を取り出すときは

電池入れのふたがはずれたときは

電池入れのふたは、開けるときに過大な力を加えると、はずれるようになっています。はずれた場合は、図のように取り付けてください。

つづく➔

コンセントにつないで使う

長時間の録音や、ダビング、同時録音などをする場合は、家庭用電源（コンセント）で使うと、電池消耗の心配がなく便利です。

1 ACパワーアダプター（付属）を本体のDC IN 3Vジャックにつなぎます。

2 ACパワーアダプターをコンセントにつなぎます。

ご注意

- この製品には、付属のACパワーアダプター(極性統一形プラグ・JEITA規格)をご使用ください。それ以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

- ACパワーアダプターは、容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  – 本機を本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。
  – 火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

ICメモリーに録音する

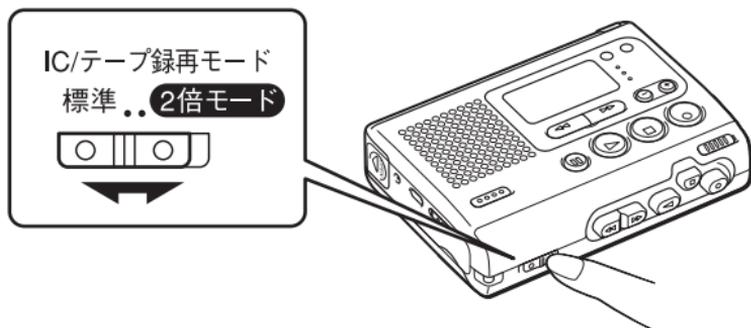
内蔵マイクですぐに録音できます。録音●ボタンを押すと、自動的にすべての用件の一番最後の部分に録音が追加されるので、テープのように録音されていない部分を探す必要がなく、すぐに録音が始められます。

例：

用件1	用件2	新しい用件	空きスペース

本機では最大99件の用件を録音できます。
ICメモリー録音中（一時停止中も含む）、カセットコーダー部は録音以外の操作ができなくなります。

1 録音モードを選ぶ

IC/テープ録再モードスイッチを「標準」または「2倍モード」に合わせる

録音可能時間について

最大録音時間は下記のとおりです。録音可能な残り時間は「録音残り時間表示」で確認できます。

標　　準：	約7時間20分	通常の録音をするとき。「2倍モード」のときより良い音で録音できます。
2倍モード：	約14時間40分	講義、会議、口述、メモ録音などに適しています。音楽の録音にはおすすめできません。

録再モード表示について

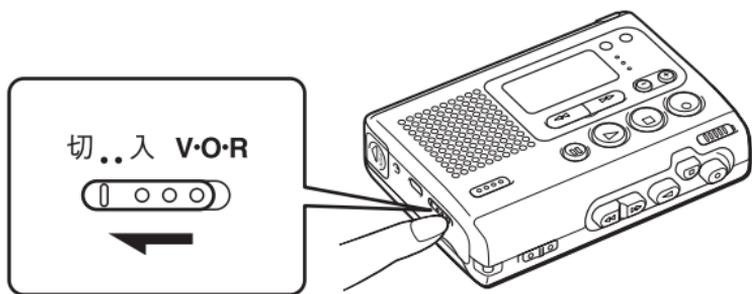
録音モードを選ぶ際、表示窓の録再モード表示、および録音残り時間表示がIC/テープ録再モードスイッチに連動して切り換わらないことがあります。この場合、ICレコーダー部のボタンをどれか押すと、正しい録再モード表示に切り換わります。また、1分ごとに時計表示が変わる際に、あわせて正しい録再モード表示に切り換わります。

ご注意

- 録音中にIC/テープ録再モードスイッチを切り換えても、録音モードは録音を始めたときの状態のまま変わりません。
- 録音件数が99件未満でも、上記の録音可能時間に達するか、または録音時間が上記の録音可能時間の範囲内でも、録音件数が99件に達した場合、それ以上の録音はできません。

つづく➔

2 VOR（自動音声録音スタート）機能を「切」にする

ここでは通常の録音のしかたを説明します。VORスイッチは「切」にしてください。VOR機能を使って録音する場合は、「音がしたとき自動的に録音を始める」（43ページ）をご覧ください。

3 録音を始める

停止中に、録音●ボタンを押す。

録音●ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。

* 表示を切り換えるには49ページをご覧ください。

録音中の音を聞くには

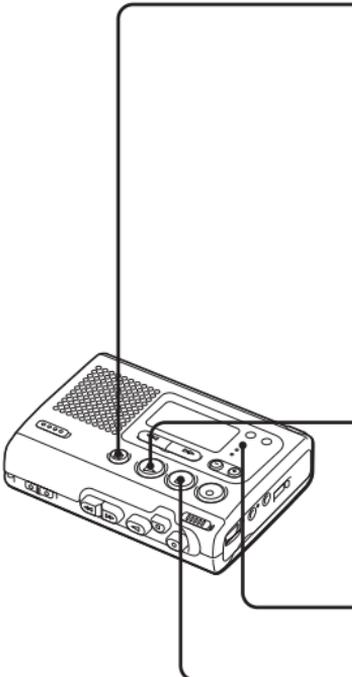
別売りのイヤーレシーバーをイヤホンジャックに差し込むと、録音中の音をモニターできます。モニター音は音量つまみで調節できます(録音レベルは一定です)。

ご注意

イヤーレシーバーで録音中の音を聞くと、エコーのように聞こえることがありますが、録音内容に影響はありません。

つづく→

4 録音を止める

停止■ボタンまたはIC一時停止❚❚ボタン、再生►ボタンのいずれかを押す。

IC一時停止❚❚ボタン*
録音が一時停止します。(ICメモリー動作ランプが赤く点滅し、表示窓に「PAUSE」表示が点滅します。)
もう一度押すと、一時停止が解除されます。(先程録音していた用件に続けて録音することができます。)

IC一時停止

再生►ボタン
録音が止まり、今録音した用件のはじめから聞くことができます。

ICメモリー動作ランプ

停止■ボタン
録音が止まり、今録音した用件のはじめに戻ります。

* 録音を一時停止して約1時間たつと、一時停止は解除され、録音停止になります。

録音するときのご注意

- ICメモリー動作ランプが赤に点灯または点滅中は、電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜かないでください。データが破損するおそれがあります。
- マイクジャックに別売りマイクなどのオーディオコードをつないでいるときは、内蔵マイクでの録音はできません。つないだ機器またはコードをはずしてください。
- 録音中、本機に手などがあたったり、こすったり、カセットコーダー部の操作をすると雑音が録音されてしまいます。

ご注意

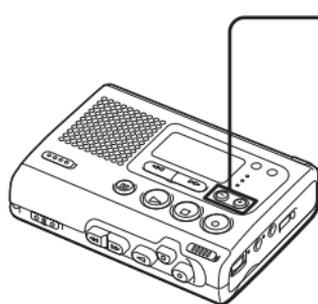
- より良い音質で録音したいときは、IC/テープ録再モードスイッチを「標準」に合わせてください。
- 録音を始める前に必ず（電池交換）ランプを確認してください。
- 長時間録音途中の電池交換を避けたいときは、付属のACパワーアダプターをお使いください。
- 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

「FULL」表示について

録音中にメモリーがいっぱいになる（録音可能時間の上限に達する）と、自動的に録音が止まり、スピーカーから警告音が鳴り、表示窓に「FULL」表示が点滅します。不要な用件を消去してください（「録音内容を消去する」50ページ）。

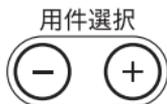
ICメモリーの録音内容を聞く

あらかじめ録音してある用件を選んで聞くときは、手順1から操作してください。今録音したばかりの用件を聞くには、手順2を行ってください。
ICメモリー再生中（一時停止中を含む）、カセットコーダー部はダビング以外の操作ができません。

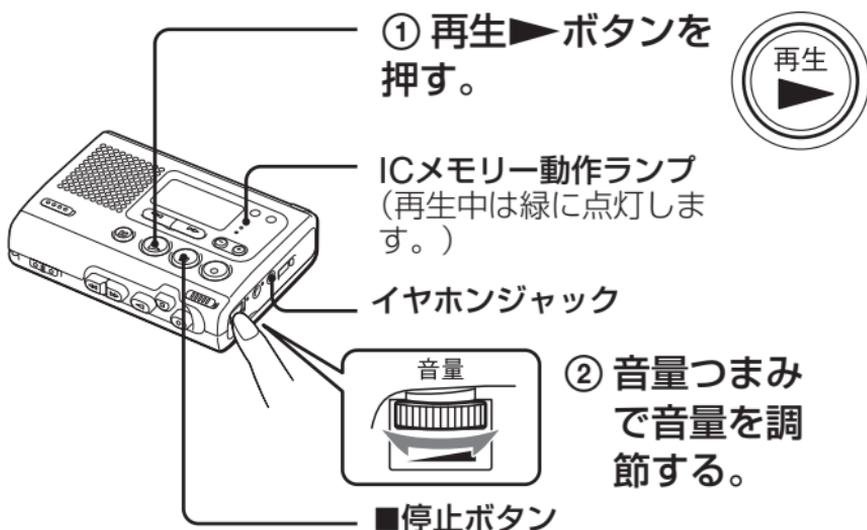
1 用件番号を選ぶ

用件選択⊕または⊖ボタンを押して、聞きたい用件の番号を表示させる。
⊕:次の用件へ
⊖:前の用件へ

用件選択

用件番号

録再モード表示*

* 選んだ用件を録音したときにIC/テープ録再モードスイッチで設定したモード（「標準」または「2倍モード」）が自動的に表示されます。再生時にスイッチを切り換える必要はありません。

2 再生を始める

03/05 件 のこり 2H20M
標準 0 00 52

カウンター表示*
（経過時間）

* 「表示を切り換える」（49ページ）で設定した内容が表示されます。

ひとつの用件の再生が終わると、次の用件が続けて再生されます。最後の用件の再生が終わると、その用件の最後尾で止まります。

つづく➔

その他の操作

操作	押すボタン、ずらすスイッチ
再生の途中、その位置で停止する	停止■またはIC一時停止❚❚ 停止■ボタンを押した場合は、再生がそこで止まります。IC一時停止❚❚ボタンを押した場合は、もう一度押すと、止めたところから再生が始まります。(IC一時停止中、ICメモリー動作ランプは緑色に点滅)
今聞いている用件の頭に戻る	用件選択⊖ボタンを短く1回押す。
前の用件、さらに前の用件に戻る	用件選択⊖ボタンを短く何回か押す。(停止中は押したままにすると、連続して戻ります。)
次の用件に進む	用件選択⊕ボタンを短く1回押す。
さらに次の用件に進む	用件選択⊕ボタンを短く何回か押す。(停止中は押したままにすると、連続して進みます。)
早送りする*1*2	停止中に▶▶早送り/キュー
巻き戻す*1*2	停止中に◀◀巻戻し/レビュー
音を聞きながら早送りする(キュー)*2	再生中に▶▶早送り/キューを押したままにして、聞きたいところで離す。
音を聞きながら早戻しする(レビュー)*2	再生中に◀◀巻戻し/レビューを押したままにして、聞きたいところで離す。

*[1] 最初は少しずつ早送り／巻き戻しされ、しばらくそのままにすると、高速での早送り／巻き戻しになります。
*[2] 表示モードの設定に関係なくカウンター表示になります。

イヤーレシーバーで聞くには

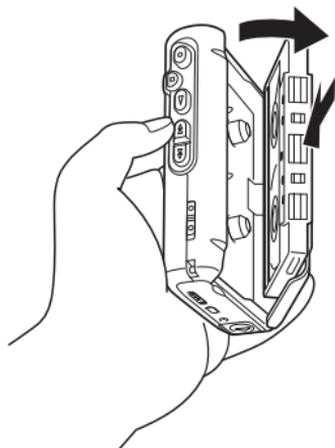
別売りのイヤーレシーバーをイヤホンジャックに差すと、両耳から聞こえます（音声はモノラルです）。このとき、スピーカーからは音が出なくなります。雑音が入るときは、イヤーレシーバーのプラグをきれいに拭いてください。

最後の用件の終わりまで早送りすると

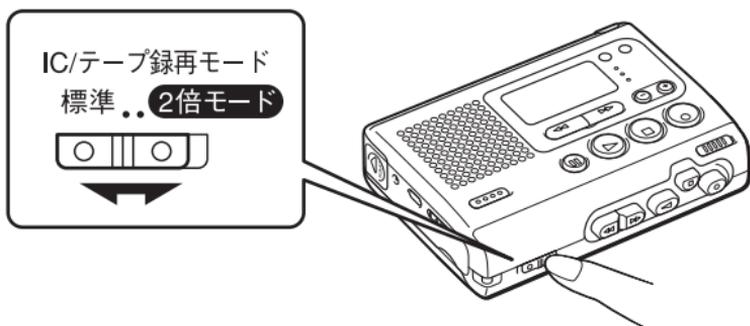
「END」表示が5秒間点滅します。（再生音は聞こえません。）
「END」の点滅とICメモリー動作ランプが消えると最後の用件の最後尾で止まります。

テープに録音する

内蔵マイクですぐに録音できます。
録音にはノーマルテープ(TYPE I)をお使いください。
クローム（TYPEII）、メタル（TYPE IV）では正しく録音できないことがあります。
テープ録音中（一時停止中を含む）、ICレコーダー部は録音以外の操作ができなくなります。

1 カセットを入れる

① 手でふたを開ける
② 録音を始める面をふた側にして入れる
③ ふたを閉める

2 録音モードを選ぶ

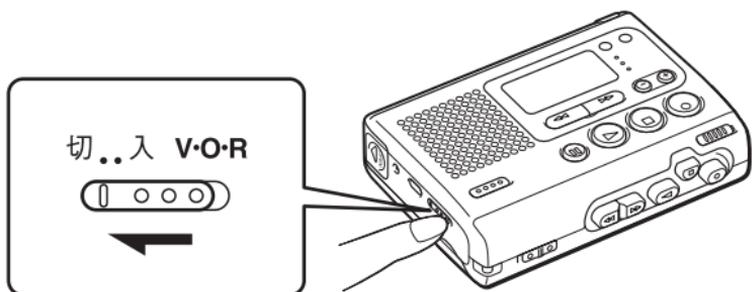
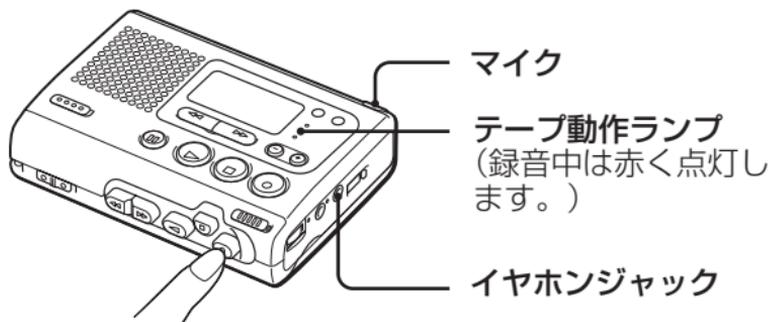
IC/テープ録再モードスイッチを「標準」または「2倍モード」に合わせる

標準： （4.8cm/s）	通常の録音をするとき。 「2倍モード」のときより良い音で録音できます。
2倍モード： （2.4cm/s）	テープ速度を半分にして2倍の時間、録音をするとき。 講義、会議、口述、メモ録音などに適しています。音楽の録音にはおすすめできません。 （60分テープを使うと、両面で120分間の録音ができます。）

つづく→

表示窓について

- 表示窓はICレコーダー部の内容を表示するものですが、録再モードについてはカセットコーダー部使用時にも参考にしていただけます。
- 録音モードを選ぶ際、表示窓の録再モード表示および録音残り時間表示がIC/テープ録再モードスイッチに連動して切り換わらないことがあります。この場合、ICレコーダー部のボタンをどれか押すと、正しい録再モードに切り換わります。また、1分ごとに時計表示が変わる際に、あわせて正しい録再モード表示に切り変わります。

3 VOR（自動音声録音スタート）機能を「切」にする

ここでは通常の録音のしかたを説明します。VORスイッチは「切」にしてください。VOR機能を使って録音する場合は、「音がしたとき自動的に録音を始める」（43ページ）をご覧ください。

4 録音する

●録音ボタンを押す。

◄再生ボタンが同時に押され、録音が始まります。

テープの終わりまで来ると、自動的に止まります。（オートシャットオフ機能）

つづく➔

録音中の音を聞くには

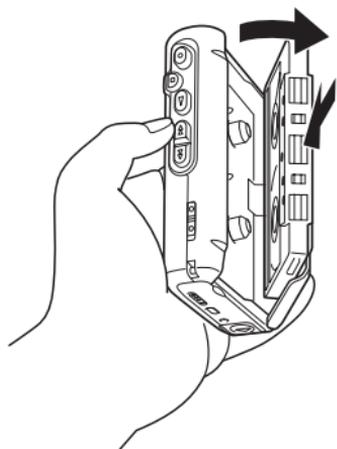
別売りのイヤーレシーバーをイヤホンジャックに差し込むと、録音中の音をモニターできます。モニター音は音量つまみで調節できます。(録音レベルは一定です。)

操作	押すボタン、ずらすスイッチ
録音を止める	■停止
一時停止する	テープ一時停止◢▬(テープ動作ランプは赤く点滅) 一時停止を解除するには、テープ一時停止◢▬を元に戻す*
カセットを取り出す	■停止を押してから、手でふたを開ける

* 一時停止は■停止ボタンを押した場合にも自動的に解除されます(ストップポーズリリース機能)。

テープを聞く

スピーカーから音が聞こえます。
ノーマルテープ(TYPE I)をお使いください。
テープ再生中（一時停止中を含む）や、早送り／巻き戻しの操作中、ICレコーダー部はすべての操作ができなくなります。

1 カセットを入れる

① 手でふたを開ける
② 再生を始める面をふた側にしてカセットを入れる
③ ふたを閉める

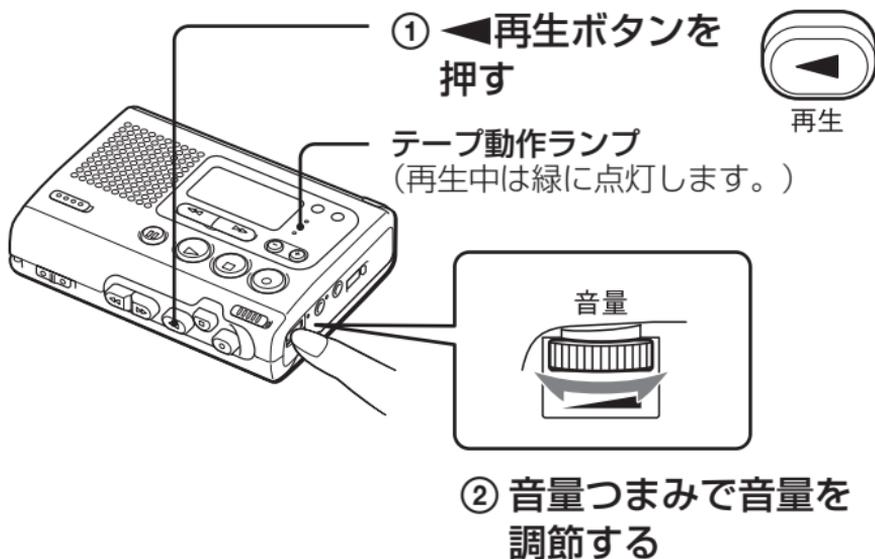
つづく➔

2 再生モードを選ぶ

市販の録音済みテープを再生するときは「標準」を選んでください。

IC/テープ録再モードスイッチを録音したときと同じ位置に合わせる

3 再生する

② 音量つまみで音量を調節する

テープ速度がおかしいときはIC/テープ録再モードスイッチの位置を確認してください。
テープの終わりまで来ると、自動的に止まります（オートシャットオフ機能）。

つづく➔

その他の操作

操作	押すボタン、ずらすスイッチ
テープを止める	■停止
一時停止する	テープ一時停止◢▬（テープ動作ランプは緑に点滅） 一時停止を解除するには、テープ一時停止◢▬を元に戻す*1
早送りする*2	停止中に◀◀早送り／キュー
巻き戻す*2	停止中に▶▶巻戻し／レビュー
音を聞きながら早送りする（キュー）	再生中に◀◀早送り／キューを押し続ける
音を聞きながら巻き戻す（レビュー）	再生中に▶▶巻戻し／レビューを押し続ける
カセットを取り出す	■停止を押してから、手でふたを開ける

*1 一時停止は■停止ボタンを押した場合にも自動的に解除されます（ストップポーズリリース機能）。

*2 早送り、巻き戻しをしてテープが巻き取られたあとは、必ず■停止ボタンを押してください。そのままにしておくと電池が消耗します。

イヤーレシーバーで聞くには

別売りのイヤーレシーバーをイヤホンジャックに差すと、両耳から聞こえます（音声はモノラルです）。このとき、スピーカーからは音が出なくなります。雑音が入るときは、イヤーレシーバーのプラグをきれいに拭いてください。

ご注意

- レビューをしてテープの端まで巻き取られたとき、ボタンから指を離しても再生にならないことがあります。そのときは、いったん■停止ボタンを押した後、◀再生ボタンを押して、再生を始めてください。
- 早送りや巻き戻しをしてテープの端まで巻き取られた後、直接◀再生ボタンや◀◀早送り／キューボタン、▶▶巻戻し／レビューボタンをし押しても動作しないことがあります。そのときは、いったん■停止ボタンを押した後、各操作ボタンをもう一度押してください。

ICメモリーからテープへダビングする

ICメモリーに録音した大切な用件をテープにダビングすることができます。
ICメモリーの録音内容を聞きながら好きなところからダビングを始めたり、ダビングを始めたい位置に合わせてからダビングする（シンクロダビング）こともできます。
ダビング中は、安定した状態でダビングするために、家庭用電源（コンセント）に接続してお使いになることをお勧めします。

再生中に好きなところをダビングする

1 ICメモリーに録音した用件を再生する

詳しくは22ページ「ICメモリーの録音内容を聞く」をご覧ください。

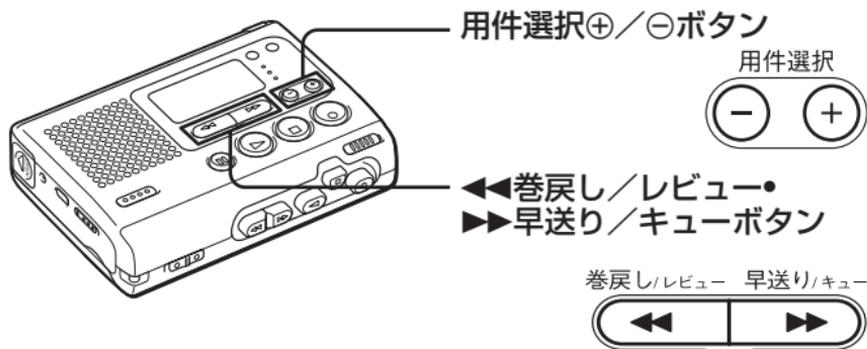
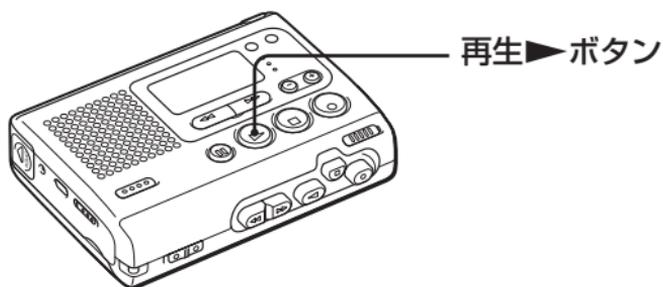
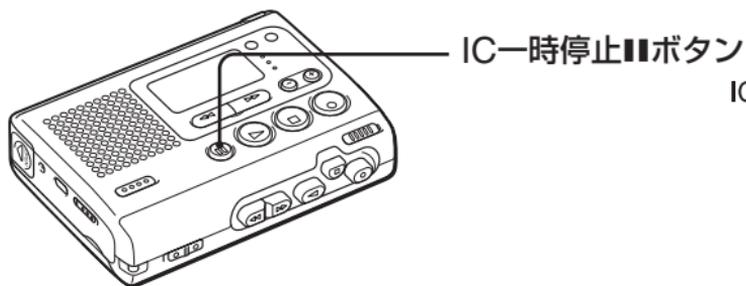
2 録音したいと思ったところでカセットコーダー部の●録音ボタンを押す

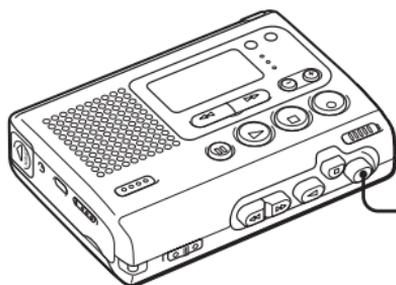
●録音ボタンを押すと、用件が2秒前に戻ったところからダビングが始まります。

つづく➔

スタート位置をあわせてダビングする–シンクロダビング

1 用件選択⊕または⊖ボタンを押して用件番号を選ぶ

用件の途中からダビングしたいときは、◀◀巻戻し／レビューボタンまたは▶▶早送り／キューボタンを押してダビングしたい場所を探します。

2 用件を再生する

3 ダビングしたいと思ったところでIC一時停止❚❚ボタンを押す

つづく➔

4 カセットコーダー部の●録音ボタンを押す

IC一時停止が解除され、ダビングが始まります。
ダビング中の音はスピーカーから聞こえます。

用件の最初から録音するには

手順3のあとで、用件選択⊖ボタンを1回だけ押して用件の頭出しをしてから次の手順に進んでください。(このとき、表示窓には「PAUSE」が点滅しているため、頭出しの確認はできません。)

ダビングを一時停止するには

カセットコーダー部のテープ一時停止◀━スイッチを矢印の方向にずらします。
ダビングを一時停止している間はICレコーダー部の録音●ボタン以外の操作ができます。ダビングの途中で

ICメモリーの録音内容を再生して確認したいときや、用件や場所を選び直してからダビングを続けたいときなどに便利です。

一時停止を解除するには

続けてダビングしたいときは、カセットコーダー部のテープ一時停止◀━スイッチを矢印と反対の方向にずらすと、再びダビングが始まります。
ダビングを続けず、停止したいときは、カセットコーダー部の■停止ボタンを押します。

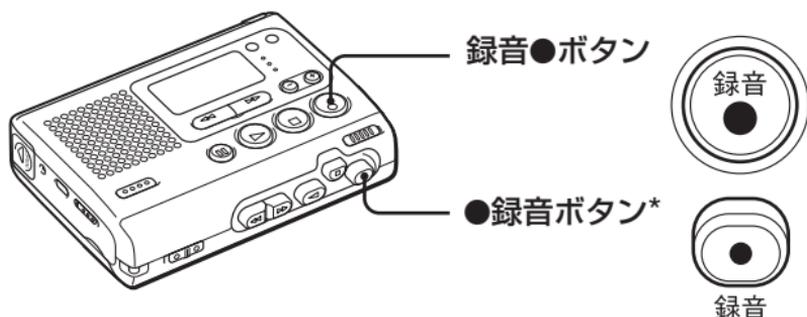
ダビングを停止するには

カセットコーダー部の■停止ボタンを押します。

ご注意

- テープからICメモリーへのダビングはできません。
- ダビング中はICレコーダー部のボタン操作はできません。
- ダビングの途中でテープが終わると、ダビングは停止します。このとき、ICレコーダー部はダビングが停止したところから16秒前に戻って止まります。
- ICメモリーの最後の用件のダビングが終了したときは、ダビングを停止するために、必ずカセットコーダー部の■停止ボタンを押してください。そのままにしておくと、テープ走行は止まりますが、カセットコーダー部の■再生ボタンと■録音ボタンが押し込まれたままになってダビングモードは継続されたままになります。

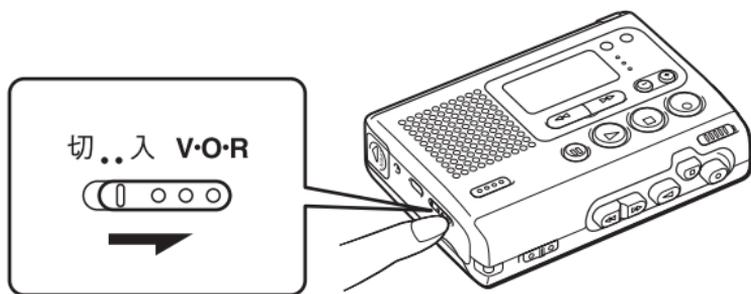
ICメモリーとテープに同時に録音する

ICレコーダー部の録音●ボタンと
カセットコーダー部の●録音ボタンを押す。

* カセットコーダー部の●録音ボタンを押すときの操作音がICレコーダー部に録音されてしまうので、同時録音するときにはカセットコーダー部の●録音ボタンを先に押すことをお勧めします。

大切な録音のときは、VORスイッチを「切」にすることをお勧めします。詳しくは次ページをご覧ください。

同時録音をやめるには

ICレコーダー部の停止■ボタンとカセットコーダー部の■停止ボタンをそれぞれ押します。（どちらか片方の停止ボタンを押した場合は、押した方の録音だけ止まり、もう一方の録音は継続されます。）

音がしたとき自動的に録音を始める－VOR機能

ICレコーダー部とカセットコーダー部の両方の録音時にお使いいただけます。
VORスイッチを「入」にして録音ボタンを押します。ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると止まります。録音の途中で録音を止める手間がはぶけるので便利です。また、空録音の部分がなくなり、ICメモリーやテープを有効に使えます。録音中にVORスイッチを「入」にすることもできます。

ご注意

- VOR機能は周囲の環境に左右されます。VORスイッチを「入」にしても思い通りに録音できないときは、VORスイッチを「切」にしてください。
- 音を感じてから録音が始まるので、言葉の初めの部分は録音されないことがあります。大切な録音のときは、VORスイッチを「切」にしてください。

外部マイクや他の機器から録音する

ご注意　**録音する前に**

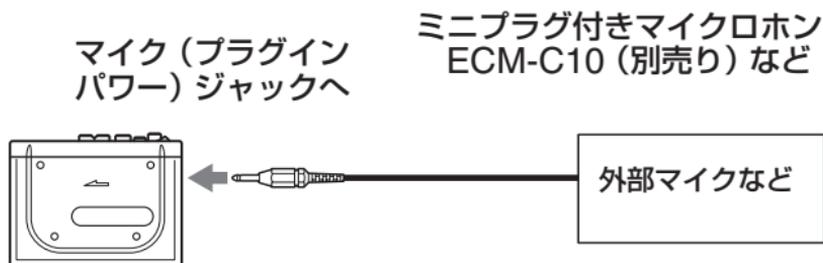
- 接続コード類のプラグはしっかり差し込んでください。
- 接続や音量調節の失敗を防ぐため、本番前に試し録音をしてください。
- 外部マイク(別売り)の感度は製品によって異なります。VOR機能を使うと思い通りに録音できないときは、VORスイッチを「切」にしてください。
- 下記の接続例ではソニー製品を使用しています。他社製品との接続がうまくいかないときは、その製品の説明書をご覧ください。

外部マイク（別売り）から録音する

本機のマイクジャックに別売りのミニプラグ付きマイクロホンをつなぎます。外部マイクをつなぐと内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。プラグインパワー対応のマイクをつなぐと、マイクの電源は本機から供給されます。

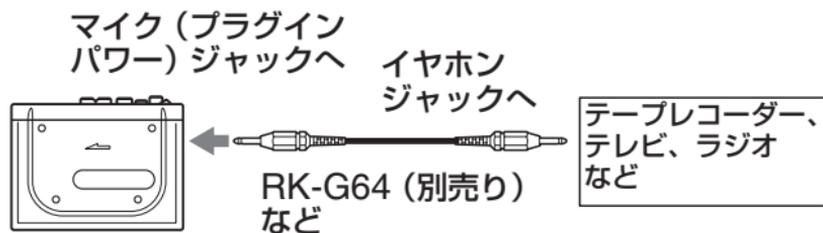
マイク（プラグインパワー）ジャックへ

ミニプラグ付きマイクロホン ECM-C10（別売り）など

外部マイクなど

お使いになれるマイク

別売りのソニー製エレクトレットコンデンサーマイクロホンECM-C10（タイピン型）、ECM-DM5P（ダイレクトインタイプ）、ECM-CZ10（ズームマイク）をお使いいただけます。

他の機器から録音する

他の機器の音声を録音するには、本機のマイクジャックと他の機器（テープレコーダーやテレビ、ラジオなど）のイヤホン端子を、別売りのオーディオコード（抵抗入り）を使ってつなぎます。

1 本機にカセットを入れます（カセットに録音する場合のみ）。

2 録音する音を他の機器から出し、聞きやすい音量にします。（テレビやラジオのREC OUTや⊡ジャックなどから録音するときは、他の機器で音量を変えても録音には影響しません。）

つづく→

3 本機のICレコーダー部の録音●ボタンまたはカセットコーダー部の●録音ボタンを押します。

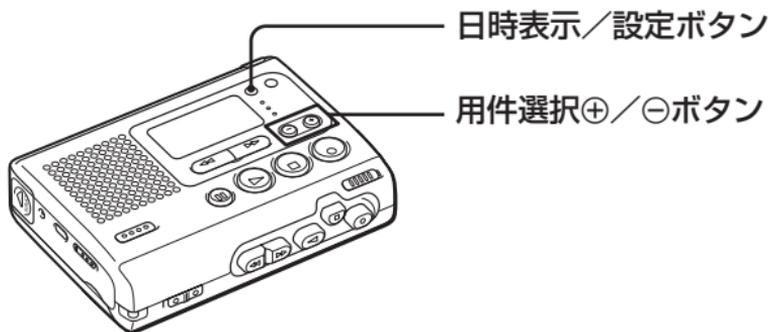
ご注意

抵抗なしオーディオコードを使用すると音声が途切れて録音されることがあります。必ず抵抗入りオーディオコードをお使いください。

電話の音声を録音するには

イヤホン型マイク（別売り）を使って、本機で固定電話や携帯電話の録音ができます。また、テレホンレコーディングアダプター（別売り）を使って固定電話の音声が録音できます。詳しくは、お使いのマイクやアダプターの取扱説明書をご覧ください。

時計を合わせる

時計を合わせておくと、録音日時を記録することができます。（表示のしかたは「表示を切り換える」（49ページ）をご覧ください。）

1 日時表示／設定ボタンを1秒以上押して時計設定画面を表示する。

表示窓

日時表示/設定

Y M D
05 1 1

2 年月日を合わせる。

① ⊕または⊖ボタンを押して「年」の数字を選ぶ。

2005年に設定するには、「05Y」を選びます。

つづく➔

② 日時表示／設定ボタンを押す。

年の数字が点灯し、次に「月」の数字が点滅します。

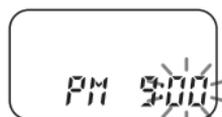
③ 同様にして、「月」、「日」を合わせ、日時表示／設定ボタンを押す。

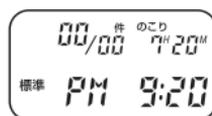
日の数字の設定が終わると「時」の数字が点滅します。

3 時分を合わせる。

① ⊕または⊖ボタンを押して「時」の数字を選ぶ。

② 日時表示／設定ボタンを押す。

時の数字が点灯し、「分」の数字が点滅します。

③ 同様にして、「分」を合わせ、日時表示／設定ボタンを押す。

時計の設定が終了し、通常の表示に戻ります。

ご注意

設定の途中で60秒以上何も操作をしないと、元の画面に戻ります。

表示を切り換える

日時表示／設定ボタンを押すと、録音時、再生時の表示窓のカウンター表示（経過時間）を下記のように切り換えることができます。

カウンター表示モード

ひとつの用件の中の経過時間を表示します。

録音年月日表示モード

用件を録音した日付けを表示します。（時計を合わせていない場合は「--Y--M--D」と表示されます。）

録音時刻表示モード

用件を録音した時刻を表示します。（時計を合わせていない場合は「--:--」と表示されます。）

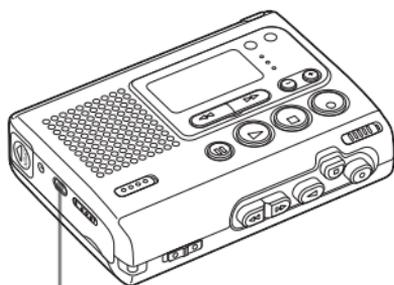
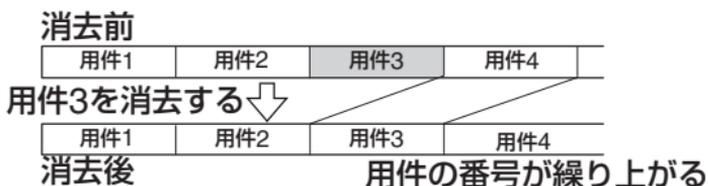
カウンター表示モードに戻る

ご注意

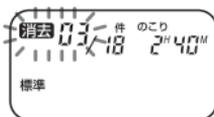
停止中に3秒以上何も操作をしないと、表示モードに関係なく、現在時刻表示になります。

録音内容を消去する

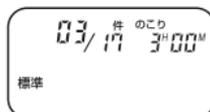
1件ずつ消去する

消したい用件を選んで消去することができます。
用件を消すと、次の用件が自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。

1 消去したい用件番号を表示させ、消去ボタンを1秒以上押す。
または消去したい用件の再生中に消去ボタンを短く1回押す。

消去

用件番号と「消去」が点滅し、消去したい用件のはじめと終わりの5秒が10回ずつ再生されます。

2 「消去」の点滅中に消去ボタンをもう1度押す。

用件が消去され、以降の用件番号が繰り上がります。

03/17 件 のこり 3H00M
標準

(例えば、用件3を消去した場合、用件4だったものが用件3になります。消去が完了すると、消去した用件の次の用件のはじめで停止します。)

途中で消去をやめるには

手順2の前に■停止ボタンを押します。

ひとつの用件の一部分だけ消去するには

「録音内容を分割する」(53ページ)で消去する部分としない部分に分け、消去したい部分の用件番号を選んで手順1と2の操作をします。

ご注意

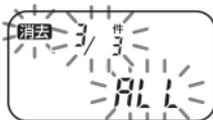
一度消去した内容を元に戻すことはできません。

つづく→

すべての用件を一度に消去する

ICメモリーの中のすべての用件を一度に消去することができます。

1 ■停止ボタンを押しながら、消去ボタンを1秒以上押す。

用件番号と保存用件数と「消去」と「ALL」が10秒間点滅します。

2 点滅している間に消去ボタンを押す。

途中で消去をやめるには

手順2の前に停止■ボタンを押します。

録音内容を分割する

ー区切り

長い用件の再生中に区切りを入れて分割したり、講義や会議の録音中に注目すべき発言のところなどに区切りを入れておくと、聞きたい部分がすばやく探せて便利です。区切りを入れたところには新しい用件番号がつきます。用件数が99件になるまで区切ることができます。

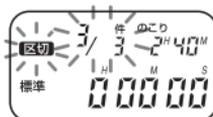
ご注意

- 区切りを入れて分割した用件を元に戻すことはできません。
- 頻繁に用件を分割すると、区切り機能が働かなくなり、分割ができなくなることがあります。
- 用件のはじめから1秒までの間では分割することはできません。

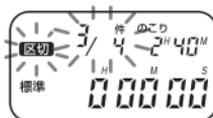
つづく➔

録音または再生中に、用件を分割したいところで区切りボタンを押す。

録音中に押したときは: 押したところから新しい用件となり、新しい用件番号と「区切」が3回点滅します。ふたつの用件として録音されますが、途切れず続けて録音されます。

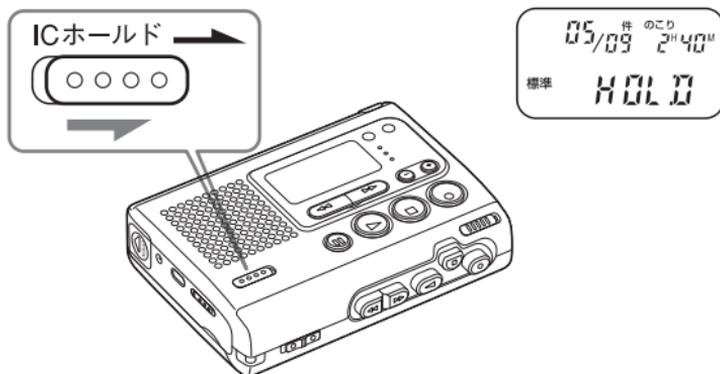
用件1 | 用件2 | 用件3
▲
区切り
続けて録音される

録音一時停止中でも用件分割できます。

再生中に押したときは: 押したところで用件が分割され、新しい用件番号と「区切」が3回点滅します。以降の用件番号はひとつずつ送られます。

用件1 | 用件2 | 用件3
▲
区切り
用件1 | 用件2 | 用件3 | 用件4
用件番号がひとつずつ増える

区切った部分を探して聞くには

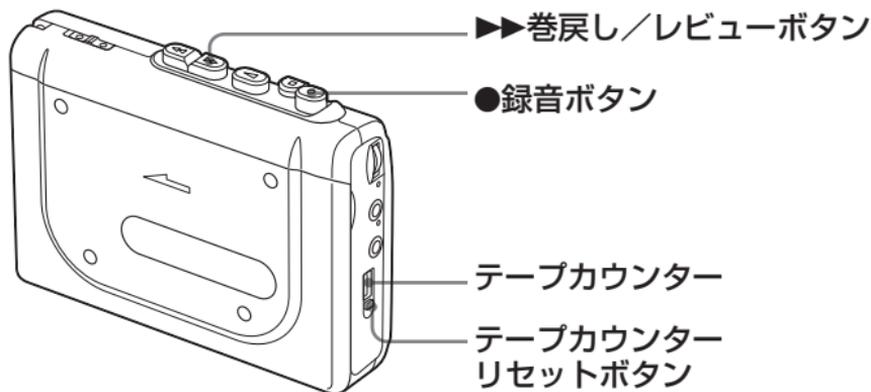
分割した用件にも用件番号がつきますので、用件選択⊕または⊖ボタンを押して聞きたい用件の番号を表示させます。

表示を消す／誤操作を防止する— ホールド機能

ICホールド━►スイッチを矢印の方向にずらします。
「HOLD」が3回点滅し、ICレコーダー部のすべてのボタンが操作できなくなります。

停止中にホールドにすると、表示窓に「HOLD」が点滅したあと、表示窓の表示がすべて消えます。（ICレコーダー部を操作中は表示窓の表示は消えません。）
操作できるようにするには、ICホールド━►スイッチを矢印と反対の方向にずらしてください。

ご注意

- 録音中にホールドにした場合、録音を止めるには、まずホールドを解除してください。
- ICホールド━►スイッチを矢印の方向にずらしてもカセットコーダー部の操作には影響ありません。ホールド機能はカセットコーダー部には働きません。

録音の便利な機能を使う

テープカウンターを使う

録音を始める前に、テープカウンターリセットボタンを押して「000」にします。頭出しに便利です。

後追い録音をする

再生中に●録音ボタンを押すと、そこから録音状態になります。録音したものの一部分を修正したいときなどに便利です。

録音したものをすぐに聞く
—ワンタッチレビュー

録音中に▶▶巻戻し／レビューボタンを押すと、押している間はテープが巻き戻され、離すとそこから再生が始まります。

電源について

電池を交換する時期

電池が消耗すると、テープ走行が不安定になったり雑音が多くなります。(電池交換マーク)(電池交換)ランプが点滅したら、乾電池を2本とも同じ種類の新しいものと交換してください。

ランプ	表示	状態
● (電池交換マーク)	(電池交換マーク)ランプが消灯	残量は充分です。
○ (電池交換マーク)(点滅)	(電池交換マーク)ランプが点滅	残量が少なくなってきました。
○ (電池交換マーク)	(電池交換マーク)ランプが点灯し表示窓に「LO BATT」表示が点灯	乾電池を交換してください。

ご注意

- 乾電池の交換やACパワーアダプターの取りはずしの際、消耗した電池やコンセントを抜いてから3分以内に新しい乾電池に入れ替えるか、ACパワーアダプターをコンセントにつながないと、日時設定が消えてしまったり、日付・時刻が正しく表示されないことがあります。この場合は時計を合わせ直してください。なお、録音した内容は消えません。

- ICメモリー動作ランプが点灯または点滅している間は、メモリーにアクセス中です。アクセス中は、乾電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜いたりしないでください。データが破損するおそれがあります。
- ランプが点滅し始めても、しばらくはテープが正常に動きますが、スピーカーから大きな雑音が出たり正しく録音されていないことがありますので、必ず乾電池を交換してください。
- 次のような場合には電池を交換する必要はありません。
  - 再生中に音量を上げたときなどにランプが音に応じて一時的にちらついた場合。
  - テープの動きはじめやテープの終わりで、ランプが瞬間的に点灯した場合。
  - 早送り・巻き戻し、またはキュー・レビュー中にランプが点滅した場合。

つづく➜

電池の持続時間

ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）*[1]使用時

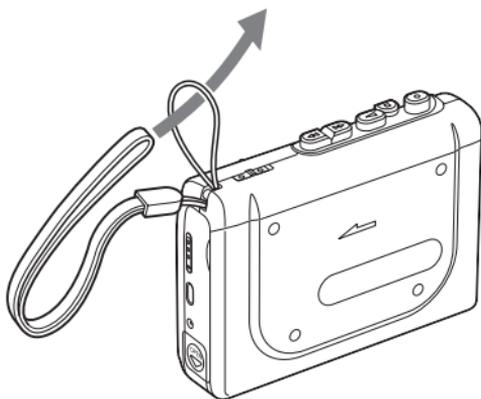
	IC/テープ録再モード	
	標準	2倍
テープ録音*[2]	約10時間	約10時間
テープ再生*[2]	約8時間	約8時間
ICメモリー録音*[3]	約8時間	約15時間
ICメモリー再生*[3]	約7時間	約8.5時間
ダビング	約3時間	約3時間
同時録音	約4時間	約6時間

*[1] 日本製ソニーアルカリ乾電池LR03(SG)で測定しています。
*[2] 電子情報技術産業協会(JEITA)規格による測定値です。（ソニーHFシリーズカセットテープ使用、音量7分目程度でミュージックテープをスピーカーで再生した場合。）
*[3] 音量レベルが中間付近で内蔵スピーカーで再生した場合。

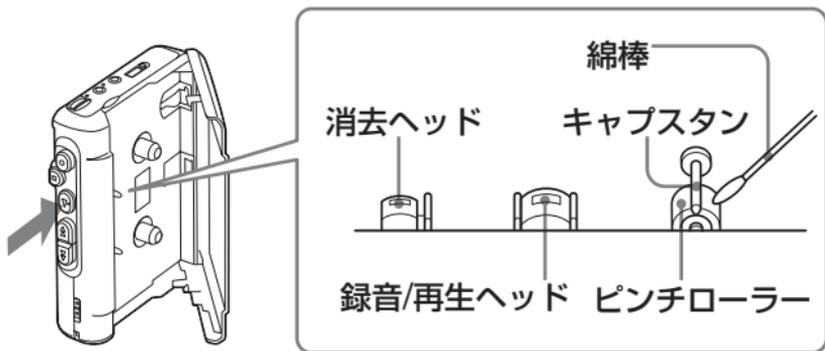
ご注意

電池持続時間は周囲の温度や使用状態、電池のメーカーや種類により、短くなる場合があります。

ハンドストラップを使う

持ち運びに便利なようにハンドストラップ（市販品）を取り付けることができます。

お手入れ

よい音で聞くために

10時間程度使ったら、市販のクリーニング液でヘッド、キャプスタン、ピンチローラーを綿棒などできれいにしてください。

◄再生ボタンを押し込む

本体表面が汚れたときは

水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

使用上のご注意

録音について

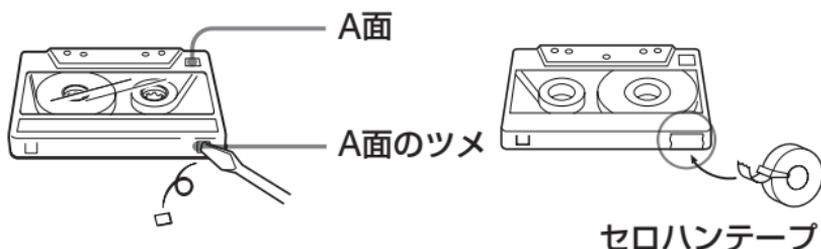
- 録音には、必ずノーマルテープ（TYPE I）をお使いください。（ハイポジション／メタルテープでは正しく録音できないことがあります。）
- マイクジャックに外部マイクや接続コードが差し込まれていると、内蔵マイクを使っての録音はできません。
- 録音中の音をイヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーの音をマイクが拾い、ピーという音が生じることがあります（ハウリング現象）。この場合はイヤーレシーバーをはずしてください。
- 録音中や再生中、本機を電灯線や蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中はスピーカーから音は出ません（ダビング時を除く）。別売りのイヤーレシーバーで聞いてください。

つづく➔

ご使用場所について

運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

大切な録音を守るには

カセットのツメを折ります。ツメを折ると録音状態にできなくなるので録音した音声を誤って消してしまうミスが防げます。ツメを折っても穴をふさぐと再び録音できます。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ。
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  - 窓を閉めきった自動車内（特に夏季）。
  - 風呂場など湿気の多いところ。

– 磁石、スピーカー、テレビなど磁気を帯びたものの近く。
– ほこりの多いところ。

- 長時間テープについて
  90分をこえるテープはなるべくお使いにならないでください。 テープが非常に薄いため、動作が不安定になって音がゆれたり、まれに機械に巻き込まれる場合があります。また、音が小さかったり、高音ののびが悪くなることがあります。
- エンドレスカセットテープについて
  エンドレスカセットテープはお使いにならないでください。機械に巻き込まれる場合があります。
- 長い間本機を使わなかったときは、再びお使いになる前に、数分間再生状態にして空回しをしてください。良い状態でお使いいただけます。

キャッシュカードや定期券などで、磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけると、マグネットの影響で磁気が変化してカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

カセットコーダー部

トラック方式	コンパクトカセットモノラル
テープ速度	4.8 cm/s、2.4 cm/s
周波数範囲*	TYPE I（ノーマル）カセット 250 Hz～6,300 Hz （IC/テープ録再モードスイッチ「標準」時）

ICレコーダー部

録音方式	内蔵フラッシュメモリー使用、 容量　64MB、モノラル録音
最大録音時間	標準: 約7時間20分 2 倍: 約14時間40分
周波数範囲	標準: 250 Hz～6,800 Hz 2 倍: 220 Hz～3,400 Hz

共通

入力端子	マイク（ミニジャック／モノラル）（プラグインパワー対応）（1） 最小入力レベル　0.2 mV インピーダンス 3 kΩ以下のマイク用
出力端子	イヤホン(ミニジャック／モノラル)(1) 負荷インピーダンス　8 Ω～300 Ωのイヤホン用
実用最大出力*	450 mW（DC時）
スピーカー	直径 36 mm
電源	DC 3 V、単4形アルカリ乾電池2本使用

最大外形寸法*	約114.5 mm × 32.5 mm × 86.6 mm（幅/高さ/奥行き）最大突起部含む
質量	本体 約171 g ご使用時　約227 g（乾電池LR03(SG)2本、カセットテープC-60HFを含む）

付属品
ACパワーアダプター（1）
単4形アルカリ乾電池（2）
キャリングケース（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ICレコーダー部基本操作ガイド（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）

別売りアクセサリー
カーバッテリーコード DCC-E230
エレクトレットコンデンサーマイクロホンECM-C10（タイピン型）、ECM-DM5P（ダイレクトインタイプ）、ECM-CZ10（ズームマイク）、ECM-TL1（電話録音用イヤホン型マイク）など
接続コード RK-G64
ステレオイヤーレシーバー MDR-E931

*　電子情報技術産業協会（JEITA）規格による測定値です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

故障かな？

修理に出す前にもう一度お調べください。ご不明な点があるときはソニーの相談窓口へお問い合わせください。

共通

症状	原因／処置
録音が途中で止まる。	• VORが働いている。 →VORを使用しないときは、スイッチを「切」にする。
スピーカーから音が出ない。	• イヤーレシーバーが差し込まれている。 • 音量が最小になっている。
雑音が入る。	• 録音したとき、本機をこすってしまい、雑音が録音された。 • 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 • 録音モニター中に音量を上げすぎたり、イヤーレシーバーを本体に近づけすぎたりすると、イヤーレシーバーの音を内蔵マイクが拾い、ピーッという音（ハウリング）が生じることがあります。 • 外部マイクで録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。 →プラグをきれいにクリーニングする。 • イヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーのプラグが汚れている。 →プラグをきれいにクリーニングする。

ICレコーダー部

症状	原因／処置
操作ボタンを押しても動作しない。	● 乾電池の⊕と⊖の向きが正しくない。 →向きを確認して入れ直す。 ● 乾電池が消耗している。 →2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 ● ICホールド━▶スイッチが入っている。（「HOLD」表示が3回点滅します。） ● カセットコーダー部が動作している。
録音できない。	● 乾電池が消耗している。 →2本とも同じ種類の新しいものと交換する。
「FULL」が点滅し、録音できない。	● メモリーがいっぱいになっている。 →不要な用件を消去する。 ● 用件が99件録音されている。 →不要な用件を消去する。
録音レベルが不安定。（音楽などを録音したとき）	● 本機は会議などの録音の際、自動的に録音レベルを調整するよう設計されているため、音楽などの録音には適していません。
時計表示が「--:--」になる。	● 時計を合わせていない。
録音日時表示が「--Y --M --D」または「--:--」になる。	● 時計を合わせていない時に録音した用件には、録音した日時は表示されません。
再生時にカウンター表示（経過時間）が出ない。	● 日時表示／設定ボタンを押して表示を切り換えている。

つづく➔

症状	原因／処置
電池の持続時間が短い。	● 乾電池の持続時間は、音量レベルを中間付近で内蔵スピーカーで再生した場合の目安です。使用条件によっては短くなる場合があります。
最大録音時間まで録音できない。	● 保存用件数が99件になると、それ以上用件は録音できません。 ● 標準と2倍モードを混ぜて録音すると、最大録音時間は標準と2倍モードの最大録音時間の間になります。 ● 最小録音単位があるため、用件の数が多いと、端数が出ることにより実際の録音可能時間が最大録音時間より短くなることがあります。 ● 最小録音単位より長い用件の場合でも、端数が出た場合は、同様に実際の録音時間よりも多く残り時間が減ることがあります。 ● 以上の理由により、実際に録音した時間の合計と、「残り時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
用件を分割できない。	● 保存用件数が99件になると、それ以上分割できません。 ● 頻繁に用件を分割をすると、分割できなくなることがあります。
正常に動作しない。	● 乾電池を取り出して、もう一度入れ直す。

カセットコーダー部

症状	原因／処置
カセットが入らない。	● カセットの向きが正しくない。
カセットぶたが閉まらない。	● ◀再生ボタンが押し込まれている。
操作ボタンを押しても動作しない。	● 乾電池の⊕と⊖の向きが正しくない。 →向きを確認して入れなおす。 ● 乾電池が消耗している。 →2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 ● テープ一時停止◢▬スイッチが矢印の方向へずらされている。 ● ICレコーダー部が動作している。 ● ACパワーアダプターが正しく接続されていない。 ● ACパワーアダプターやカーバッテリーコードが本体に差したままになっている。 →乾電池使用時には本体から抜く。
録音できない。	● カセットが入っていない。 ● カセットのツメが折れている。 →録音内容を消す場合は穴をふさぐ。 ● 乾電池が消耗している。 →2本とも同じ種類の新しいものと交換する。

つづく➔

症状	原因／処置
前の音が完全には消えない。	● 消去ヘッドが汚れている。 →クリーニングする。 ● ハイポジションまたはメタルテープを使っている。
再生できない。	● テープが終わりまで巻き取られている。
音が小さい。 音質がよくない。 雑音が入る。	● 音量が最小になっている。 ● 乾電池が消耗している。 →2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 ● ヘッドが汚れている。 →クリーニングする。 ● カセットテープをスピーカーの上に直接置いたため、テープが磁化されて音質が劣化した。 ● ハイポジションまたはメタルテープを使っている。
再生速度が速すぎたり、遅すぎたりする。 再生音がおかしい。	● IC/テープ録再モードスイッチの位置が、録音時と違う位置にある。 →反対側に切り換える。 ● 電池が消耗している。 →2本とも同じ種類の新しいものと交換する。
早送りや巻き戻しをして、テープがはしまで巻き取られたあとにカタカタと音がする。	● 停止状態になっていない。 → ■停止ボタンを押す。

ランプ表示一覧

ICメモリー動作ランプとテープ動作ランプの点灯／点滅は、それぞれ以下の動作状況を示します。

	点灯	点滅
赤色	録音中	録音一時停止中
緑色	再生中	再生一時停止中
オレンジ色	ダビング中	ダビング一時停止中

保証書とアフターサービス

保証書

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではIC/カセットコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

索引

五十音順

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

つづく➔

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。　**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル･･････････････0120-333-020
携帯電話･PHS･一部のIP電話･･ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル･･････････････0120-222-330
携帯電話･PHS･一部のIP電話･･ 0466-31-2531
※取扱説明書･リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通）0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「304」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in China